

第 1 回 縄文時代と弥生時代

§1 縄文時代

約 1 万年前に、日本列島は大陸から離れて現在のような島々の形になった。その頃、石器だけでなく、土器も使われるようになった。石器は石を叩いて作るが、土器は粘土で形を作り焼いて固めて作る。その頃の土器は、表面に縄目の模様がつけられたものが多いので、**縄文土器**と呼ばれる。この時代を縄文時代と呼ぶ。

土器によって調理（煮たり炊いたり）ができるようになり、食生活が豊かになった。農業はまだあまり発達せず、人々は主に狩り（狩猟）や採集で生活していた。食料を手に入れやすい海岸や水辺に**竪穴式住居**を作って住んだ。住居の近くには動物の骨や貝殻を捨てる**貝塚**が作られた。土器だけでなく、**土偶**と呼ばれる人形も作られ、魔よけや食料の豊かさを祈るため用いられた。

貝塚や共同墓地には、人々が平等に埋葬されていた。その様子から、縄文時代には貧富の差や身分の違いが無かったと考えられている。

§2 弥生時代

紀元前 5～4 世紀頃、大陸から渡来した人々によって稲作（米作り）が伝えられた。稲作は、北九州から東日本まで急速に広まった。金属器（**青銅器**や**鉄器**）を作る技術も伝えられ、祭りのための宝物や農具・武器として使用された。

この頃、赤くて薄く、丈夫な土器が作られるようになり、**弥生土器**と呼ばれている。弥生土器が使われた紀元前 4 世紀～紀元後 3 世紀頃までを弥生時代と呼ぶ。

稲作が始まると、社会のしくみは大きく変化した。人々は水田のまわりに集落（むら）をつくって定住するようになった。むらには人々の中心となる有力者があらわれ、この頃から貧富の差も出て来た。

§3 小国の分立

大きなむらは、他のむらを支配して小さな「国」へと成長していった。紀元前 1 世紀頃には、王や豪族が支配する小国が 100 余り存在したと考えられる。小国の一つ、奴国は、中国に使者を送り、皇帝から**金印**を与えられた。3 世紀頃には、30 余りの小国を従えた**邪馬台国**が、中国へ使者を送った。邪馬台国は、呪術の力で政治をおこなった卑弥呼という女王が支配していた。

その頃の日本にはまだ文字がなかったが、中国の歴史書には、倭と呼ばれた日本についての記述が残っている。

第1回 縄文時代と弥生時代

§1 縄文時代

約1万年前に、日本列島は大陸から離れて現在の島々の形になった。その頃、石器だけでなく、土器も使われるようになった。石器は石を叩いて作るが、土器は粘土で形を作り焼いて固めて作る。その頃の土器は、表面に縄目の模様がつけられたものが多いので、縄文土器と呼ばれる。この時代を縄文時代と呼ぶ。

土器によって調理（煮たり炊いたり）ができるようになり、食生活が豊かになった。農業はまだあまり発達せず、人々は主に狩り、漁業、採集で生活していた。食料を手に入れやすい海岸や水辺に、竪穴式住居を作って住んだ。住居の近くには動物の骨や貝殻を捨てる貝塚が作られた。土器だけでなく、土偶と呼ばれる人形も作られ、魔よけや食料の豊かさを祈るため用いられた。

貝塚や共同墓地には、人々が平等に埋葬されていた。その様子から、縄文時代には貧富の差や身分の違いがなかったと考えられている。

§2 弥生時代

紀元前5～4世紀頃、大陸から渡来した人々によって稲作（米作り）が伝えられた。稲作は、北九州から東日本まで急速に広まった。金属器（青銅器や鉄器）を作る技術も伝えられ、祭りのための宝物や農具・武器として使用された。

この頃、赤くて薄く、丈夫な土器が作られるようになり、弥生土器と呼ばれている。弥生土器が使われた紀元前4世紀～紀元後3世紀頃までを弥生時代と呼ぶ。

稲作が始まると、社会のしくみは大きく変化した。人々は水田のまわりに集落（おら）をつくって定住するようになった。おらには人々の中心となる有力者があらわれ、この頃から貧富の差も出て来た。

§3 小国の分立

大きなおらは、他のおらを支配して小さな「国」へと成長していった。紀元前1世紀頃には、王や豪族が支配する小国が100余り存在したと考えられる。小国の一つ、奴国は、中国に使者を送り、皇帝から金印を与えられた。3世紀頃には、30余りの小国を従えた邪馬台国が、中国へ使者を送った。邪馬台国は、呪術の力で政治をおこなった卑弥呼という女王が支配していた。

その頃の日本にはまだ文字がなかったが、中国の歴史書には、倭と呼ばれた日本についての記述が残っている。

Part I: Jomon and Yayoi Periods

§1 Jomon Period

About 10,000 years ago, the Japanese archipelago separated from the continent and took the shape of islands, similar to that of today. At that time, earthenware came into use in addition to stone tools. Stone tools are made by pounding stones, while earthenware is made by shaping clay and hardening it by baking. Earthenware from this period is called **Jomon earthenware(縄文土器”Jomondoki”)** because many of them have a rope pattern(縄文”Jomon”) on them. This period is called the Jomon period.

Since earthenware made cooking possible, food became more diverse during the Jomon period. Agriculture had not yet developed much, and people lived by hunting, fishing and gathering. People lived in **pit dwellings(竪穴式住居”Tateanashiki-jyukyo”)** on the coast or near water, where food was easily available. **Shell mounds(貝塚”Kauizuka”)**, where animal bones and shells were discarded, were created near settlements (villages). In addition to earthenware, dolls called **clay figures(土偶”Dogu”)** were made and used to ward off evil or to pray for food abundance. From the appearance of the tombs, it is believed that no differences in wealth or status existed during the Jomon period.

§2 Yayoi Period

Around the 5th to 4th century B.C., people from the continent introduced rice farming. Rice farming spread rapidly from Kitakyushu to eastern Japan. The technology to make **metal objects (bronze and iron)(青銅器”Seidohki”, 鉄器”Tekki”)** was also introduced, and these were used as treasures for festivals, farming tools, and weapons.

During the period when rice farming and metalware were introduced, red, thin, and durable earthenware came to be produced. These are called **Yayoi earthenware(弥生土器”Yayoidoki”)**. The period from the 4th century B.C. to the 3rd century A.D. when these Yayoi earthenware vessels were used is called the Yayoi period.

The social structure changed drastically with the start of rice farming. People began to settle in villages around rice paddies. In each village, there emerged an influential person who became the center of the community, and the gap between

the rich and the poor began to widen.

§3 Division of small villages

Large villages came to dominate other villages and grew into small nations. By the 1st century B.C., there were about 100 small states ruled by kings and powerful families. One of these small states (called "Nakoku") sent envoys to China and were given gold seal(金印"Kin-in") by the emperor. In the 3rd century, a queen named Himiko ruled over the Yamataikoku (邪馬台国) region through the power of witchcraft. The Yamataikoku, with its 30 or so small states, sent envoys to China. At that time, Japan did not yet have a written language, but Chinese history books contain descriptions of Japan (called "Wa").

第1回 绳文与弥生时代

§ 1. 绳文时代

大约在一万年前，日本列岛从大陆分离出来，形成了我们今天所知的岛屿形态。在那个时代，不仅是石器，陶器也得到了广泛使用。石器是用石头进行打磨加工而制成，而陶器则是通过塑造粘土并加以烧制使其硬化成型的。这一时期的陶器因其表面多有绳纹（绳子的纹路）所以称为绳文陶器（縄文土器）。这一时代也被称为绳文时代。

陶器的应用使烹饪变为可能（如烹煮和熬炖），丰富了人们的饮食生活。当时农业尚不发达，人们主要还是依靠狩猎与采集为生。因此他们将竖穴式住所（竖穴式住居）建造在更容易获取食物的海岸边或水边。并在居住地附近堆筑起用遗弃兽骨和贝壳制作的贝冢（貝塚）。除陶器之外，人们还制作了被称为陶俑（土偶）的人偶，用以驱邪以及祈求获得丰盛的食物。人们被平等地埋葬在贝冢或公共墓地中。从这一点来看，贫富差距或身份地位的差别并没有在绳文时代显现出来。

§ 2. 弥生时代

公元前5~4世纪左右，从大陆迁徙而来的人们将水稻种植（水稻栽培）技术传入日本。由此水稻种植从北九州迅速传播到东日本。金属器具（青铜器（青銅器）和铁器（鉄器））的制作技艺也得以传承，并被应用于祭祀时所使用的宝物、农具及武器等方面。

在这个时期，烧制的薄而坚固的红色陶器，被称为弥生陶器（弥生土器）。而弥生陶器广泛使用的公元前4世纪到公元后3世纪即被称为弥生时代。

随着水稻种植的展开，使社会结构发生了巨大变化。人们开始在稻田周围建立聚落，并逐步定居下来。有权势的人成为村落中人们的核心，从这时开始，贫富差距也开始显现。

§ 3. 小国的分立

较大的村庄通过对其他村庄的统治逐渐发展成为较小的“国家”。公元前1世纪左右，据推测大约有100个由王或强大家族统治的这样的小国存在。其中一个名为奴国的小国，曾遣使中国（汉朝）并被皇帝赏赐金印。在3世纪左右，统治着30多个小国的邪马台国（邪馬台国）向中国派遣了使者。邪马台国由一位名叫卑弥呼的女王统治，她运用巫术的力量支配国家。这一时期，日本虽尚未有文字产生，但在中国的史书中已经有了关于日本的记载，当时的日本被称为倭。